今年度のコクピットの目標であるドライバビリティの向上とコクピット環境の改善に倣って設計を行った。

昨年度のマシンでは、パッケージングレイアウトの連携不足によりシートの搭載スペースを十分確保することができず、シートの背もたれの角度が29度のアップライトポジションとなってしまった。これにより、エンデュランス等の長時間の耐久走行には不向きの非常に窮屈なドライビングポジションとなってしまった。そこで今年度は、各ドライバーの適切なドライビングポジションを検証しかつエルゴノミクスの観点から耐久走行を行ってもあまり負担がかかりにくいシートを志した。←その結果、背もたれの角度が35度のリクライニングポジションとした。

また、シートステーの形状を～のものから～のものへ変更することで～ｇの軽量化委に成功し、シート本体も～ｇ減の～ｇとなった。